(19)日本国特許庁(JP)　(12)登録実用新案公報(U)　(11)実用新案登録番号
実用新案登録第3130642号
(U3130642)
(45)発行日　平成19年4月5日(2007.4.5)　(24)登録日　平成19年3月14日(2007.3.14)

(51)Int.Cl.　F I
A45B 25/12 (2006.01)　A45B 25/12 D
A45B 25/24 (2006.01)　A45B 25/24 Z

評価書の請求 未請求　請求項の数 3　ＯＬ　（全 6 頁）

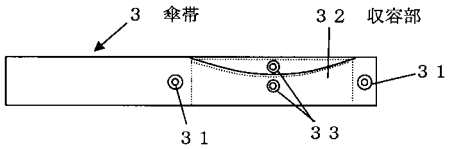
(21)出願番号　実願2007-218(U2007-218)
(22)出願日　平成19年1月18日(2007.1.18)

（特許庁注：以下のものは登録商標）
１．マジックファスナー

(73)実用新案権者　507019156
▲あさ▼井　秀治
山口県下関市豊北町大字神田２０７６番地
(74)代理人　100087804
弁理士　津川　友士
(72)考案者　▲あさ▼井　秀治
山口県下関市豊北町大字神田２０７６番地

(54)【考案の名称】傘

(57)【要約】
【課題】　濡れた傘を収納するための傘収納袋を簡単に携行する。
【解決手段】　傘帯３の先端側のほぼ１／２の部分が、幅方向の一方が開口するよう袋状の収容部３２に形成されている。
【選択図】　図２



【実用新案登録請求の範囲】
【請求項１】
傘収納袋（５）を収容するための収容部（３２）を傘帯（３）の所定位置に設けたことを特徴とする傘。
【請求項２】
前記収容部（３２）は、傘のシート部材（２）に対する傘帯（３）の取り付け位置に向く側に、傘収納袋（５）を出し入れするための開口部を有している請求項１に記載の傘。
【請求項３】
前記収容部材（３２）は、傘帯（３）の幅方向の一側に向く側に、傘収納袋（５）を出し入れするための開口部を有しているとともに、傘収納袋（５）の脱落を防止する脱落防止部材（３３）を有している請求項１に記載の傘。

【考案の詳細な説明】
【技術分野】
【０００１】
本考案は、主として雨天時に使用される傘に関する。
【背景技術】
【０００２】
従来から、主として雨天時に使用される傘として種々のデザイン、機構のものが提供されている。
【０００３】
また、百貨店、スーパーマーケット、各種専門店などでは、雨天時に客の傘から床面に水滴が垂れることを防止するとともに、塗れた傘で他人の衣服を濡らしてしまうことを防止するために、入り口に濡れた傘を収納する傘収納袋を準備しておき、しかも、使用済みの傘収納袋を廃棄するごみ箱を設けておくことによって、使用済みの傘収納袋が邪魔になることを防止している。
【考案の開示】
【考案が解決しようとする課題】
【０００４】
入り口に濡れた傘を収納する傘収納袋を準備している店舗では、濡れた傘を傘収納袋に収納することによって上記の利点を達成することができるが、傘収納袋が使い捨てであるから、資源の浪費になってしまう。
【０００５】
また、濡れた傘を収納する傘収納袋を準備していない店舗、電車、バスなどでは、濡れた傘を傘収納袋に収納することができないので、雨天時に客の傘から床面に水滴が垂れてしまうとともに、塗れた傘で他人の衣服を濡らしてしまう。
【０００６】
本考案は上記の問題点に鑑みてなされたものであり、濡れた傘を収納するための傘収納袋を簡単に携行することができる傘を提供することを目的としている。
【課題を解決するための手段】
【０００７】
本考案の傘は、傘収納袋を収容するための収容部材を傘帯の所定位置に設けたものである。
【０００８】
この場合には、濡れた傘を閉じた時に、収容部材から傘収納袋を取り出し、取り出した傘収納袋に濡れた傘を収納することができ、濡れた傘で他人の衣服を濡らしてしまうことを防止することができ、しかも、傘収納袋を何度も繰り返して使用することができ、ひい

ては傘収納袋を有効活用して、ごみが増加することを防止することができる。そして、傘収納袋として底部が閉じられたものを採用する場合には、自己の傘から床面に水滴が垂れることを防止することができる。

【０００９】

ここで、前記収容部が、傘のシート部材に対する傘帯の取り付け位置に向く側に、傘収納袋を出し入れするための開口部を有していることが好ましく、特別の機構を設けていなくても、傘収納袋が自然落下することがなくなる。

【００１０】

また、前記収容部材が、傘帯の幅方向の一側に向く側に、傘収納袋を出し入れするための開口部を有しているとともに、傘収納袋の脱落を防止する脱落防止部材を有していることが好ましく、傘収納袋の出し入れを簡単に達成することができる。

【考案の効果】

【００１１】

本考案の傘は、塗れた傘で他人の衣服を濡らしてしまうことを防止することができ、しかも、傘収納袋を何度も繰り返して使用することができ、ひいては傘収納袋を有効活用して、ごみが増加することを防止することができるという特有の実用的効果を奏することができる。

【考案を実施するための最良の形態】

【００１２】

以下、添付図面を参照して、本考案の傘の実施の形態を詳細に説明する。

【００１３】

図１は本考案の傘の一実施形態を示す概略側面図である。

【００１４】

この傘は、取手１が設けられた中骨部材（図示せず）に対して、複数本の親骨部材（図示せず）が開閉可能に設けられているとともに、これらの複数本の親骨部材にわたって雨よけ用のシート部材２が設けられている。そして、閉じた状態においてシート部材２を巻畳んだ状態に保持する傘帯３がシート部材の所定位置に設けられている。

【００１５】

ここで、シート部材２は、ＰＯＥ（ｐｏｌｙ　ｏｘｙ　ｅｔｈｙｌｅｎｅ）、ＰＶＣ（ポリ塩化ビニール）、ＥＶＡ（エチレン酢酸ビニール）、ナイロン、ポリエステル、綿、Ｔ／Ｃ（テトロン／コットン）など、従来から傘の雨よけ部材に使用されている生地からなるものである。

【００１６】

また、傘帯３は、雨よけ部材と同じ生地からなるものである。

【００１７】

図２は傘帯３の構成の一例を示す概略図である。

【００１８】

この傘帯３は、従来の傘帯とほぼ等しい長さ（例えば、３００ｍｍ）を有するとともに、従来の傘帯よりも大きい幅（例えば、４０ｍｍ）を有するものであり、しかも、巻畳んだ状態のシート部材を包囲した状態で固定するための固定部材（例えば、スナップボタン、マジックファスナーなど）３１を有している。また、傘帯３の先端側のほぼ１／２の部分が、幅方向の一方が開口するよう袋状の収容部３２に形成されている。この収容部３２は、傘収納袋を折畳み状態、または丸めた状態で収容するためのものであり、収容された傘収納袋の脱落を防止するための脱落防止部材（例えば、スナップボタン、マジックファスナーなど）３３を有している。

【００１９】

図３は傘収納袋５の一例を示す概略図である。

【００２０】

この傘収納袋５は、円錐状の袋体の先端部を開口させたものであり、傘の石突４が袋体の先端部から突出し、しかも、巻畳んだ状態の雨よけ部材が収納される。そして、この傘

収納袋は、例えば、基部側が１００Φ、先端部側が５０Φ、長さが６８０ｍｍに設定される。ただし、これらのサイズは、収納する傘に合わせて変更される。

【００２１】

また、この傘収納袋５は、ＰＯＥ、ＰＶＣ、ＥＶＡなどからなるものである。ただし、布製のものであってもよい。

【００２２】

上記の構成の傘を閉じて店舗、乗り物などに入る場合には、傘帯３に一体的に設けられた収容部３２から傘収納袋５を取り出し、濡れた傘を巻畳んで傘収納袋５に収納することによって、濡れた傘で他人の衣服を濡らしてしまうことを防止することができる。

【００２３】

上記の傘収納袋５では、先端部が開口しているので、水滴が垂れることは防止できない。しかし、先端部が開口していない傘収納袋を使用すれば、水滴が垂れることを防止することができる。

【００２４】

そして、店舗、乗り物などから出る場合には、傘収納袋５から傘を取り出し、傘収納袋５を折畳み、または丸めた状態で、傘帯３に一体的に設けられた収容部３２に収容し、この状態で傘を開くことにより、雨に濡れることなく歩行することができる。

【００２５】

以後は、店舗、乗り物などに入る場合、店舗、乗り物などから出る場合に、上記の動作を反復することによって、濡れた傘で他人の衣服を濡らしてしまうことを防止することができ、しかも雨に濡れることなく歩行することができる。また、傘収納袋５を反復的に使用することができるので、資源を有効活用することができ、ごみを少なくすることができる。

【００２６】

さらに、収容部３２が傘帯３に一体的に設けられているので、傘収納袋５の出し入れを簡単に達成することができ、しかも、傘全体として美観を損なうことがない（違和感を与えることがない）。また、傘全体としての製造コストが殆ど増加しない。

【００２７】

図４は傘帯３の構成の他の例を示す概略図である。

【００２８】

この傘帯３が図２の傘帯３と異なる点は、脱落防止部材３３として、収容部３２の開口部の一方の側に設けた1対の凸状部材と、この1対の凸状部材の間隙と係合するように他方の側に設けた１本の凸状部材からなるビニールファスナーを採用した点のみである。

【００２９】

この場合には、ビニールファスナーを用いて収容部３２の開口部を閉じることによって、収容部３２から水滴が垂れることを防止することができるほか、上記の実施形態と同様の作用を達成することができる。

【００３０】

図５は傘帯３の構成のさらに他の例を示す概略図である。

【００３１】

この傘帯３が図２の傘帯３と異なる点は、傘帯３の先端側のほぼ１／２の部分が、長さ方向の中央部側が開口するよう袋状の収容部３２に形成された点、この収容部３２が傘帯３の裏側（巻き付けた状態で傘に接する側）に設けられた点、および脱落防止部材を省略した点のみである。

【００３２】

この場合には、脱落防止部材の操作が不要であるから、傘収納袋５の出し入れを一層簡単に達成することができるほか、上記の実施形態と同様の作用を達成することができる。そして、脱落防止部材を省略しているにも拘らず、傘収納袋５の自然落下を防止することができる。

【００３３】

図６は傘帯３の構成のさらに他の例を示す概略図である。

【００３４】

この傘帯３が図５の傘帯３と異なる点は、収容部３２の開口部を斜めにした点のみである。

【００３５】

この場合には、開口部を大きくすることができるので、傘収納袋５の出し入れを一層簡単に達成することができるほか、上記の実施形態と同様の作用を達成することができる。

【図面の簡単な説明】

【００３６】

【図１】本考案の傘の一実施形態を示す概略側面図である。

【図２】傘帯の構成の一例を示す概略図である。

【図３】傘収納袋の一例を示す概略図である。

【図４】傘帯の構成の他の例を示す概略図である。

【図５】傘帯の構成のさらに他の例を示す概略図である。

【図６】傘帯の構成のさらに他の例を示す概略図である。

【符号の説明】

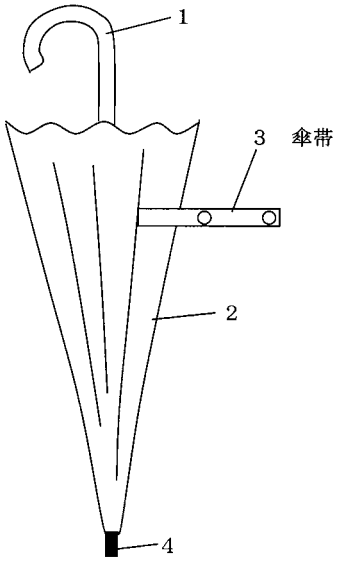
【００３７】

３　傘帯

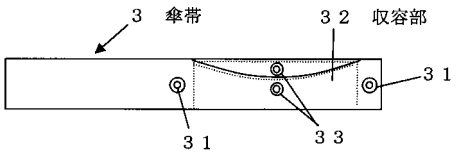
５　傘収納袋

３２　収容部

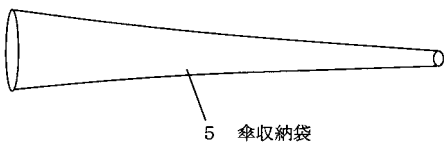
【図１】



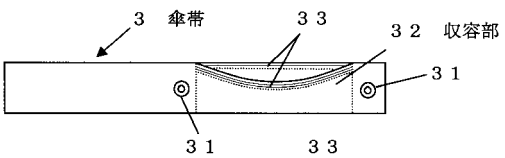
【図２】



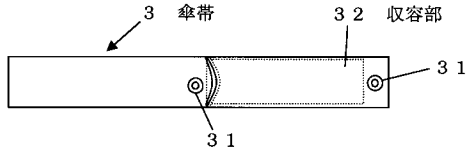
【図３】



【図４】



【図５】



【図６】

